ハレノヒ

大田区立松仙小学校
令和５年　７月　７日（金）
裏研究推進だより　第２号
研究推進担当

体育話題提供授業　協議会記録
授業者　東山　峻　教諭

記録・文責：

	成果	課題＆疑問
導入	◎補助運動 ・本時の活動に繋がるような動きが含まれていた。	
展開	◎教師の言葉がけ ・教師の具体的な言葉がけが課題を解決するための手立てとなっていた。 ◎掲示物・お手本動画の活用 ・場の活用方法が掲示されていることによって分かりやすかった。 ・お手本動画が効果的に活用されていた。 ◎チェックシートの活用 ・チェックシートが課題を把握するための手立てとなっていた。 ・同じグループの子が同じ視点をもって取り組むことができていた。	◎教師の見取り ・具体的に声かけを行うには教師の確かな見取りが必要になってくる。 ◎補助の仕方 ・安全な補助の仕方を子供たちも知る必要がある。 ・児童のできるレベルによって補助の仕方を変える必要がある。 ◎できた感 ・児童のできた感が伝わってくるともっと良くなる。
終末	◎振り返りカードの工夫 ・本時で見つけた課題を基に、次の時間の個人のめあてを書いていた。	

＜授業者自評＞

・課題が一人ひとり違うことに対して、短い言葉で声かけをすることが大変だった。
・できていることを見取ることを意識した。

☆「勉強になった！」ポイント☆

チェックシートに技のポイントが細かく書いてあることで、スモールステップを踏んで課題を解決することができていた。チェックシートを用いて課題が明確になることで、子供同士の学び合いが活発になっていた。また多様な練習の場が準備されていることで、自分の課題を解決するためにはどこで練習したらよいのか考えることができていた。

指導・講評
国士舘大学教授

＜器械運動の授業づくりについて＞
・器械運動で身に付けるべき４つの基礎的運動感覚とは
　→逆さ感覚、腕支持感覚、回転感覚、振動感覚
　　これらの基礎的な感覚を、授業の中で身に付けていくことが、様々な技の習得につながる。
・子供の動きを引き出し、質を高める教材・教具、場の工夫を考える。
　→あと少し、もう少し。と思える場や課題の設定になっているか。
　　子供たちの動きを変える“小さじ一杯の工夫”があるか。
・教師の働きかけを振り返る
　→教師が発する必要のある事
　　・動きの習得に関すること
　　・子供の学習意欲の喚起に関すること
　　・子供の次の学びが導かれるような表情やジェスチャー

よかったところ

☆マット運動チェックシート

スモールステップで課題が示されたワークシートによって、児童の課題が明確になった。課題が明確になることで、子供同士の教え合いがスムーズに行われていた。

☆教師の言葉がけ

一人ひとり違う課題をもった活動で、端的に児童自身が考えて課題解決ができるような声かけが行われていた。具体的な声かけのための教師の見取りが丁寧だった。

今後に向けて

★効果的な補助や助言の仕方

児童の躓いているポイントによって補助や助言の仕方が変わってくる。まずは児童がどこに課題があるか見取る必要がある。

キラリと光る付箋　文責：

＜資料・動画＞
・チェックシートがあることで技ができているかどうか子供たちでも分かりやすかった。またどこを意識したらできるようになるのかも分かりやすかった。
・自分からお手本動画を見て、課題を発見しようとする姿が見られた。
＜グループ分け＞
・学び合うグループ分けがよい。技能のバランスと、児童同士が学び合えるような人間関係、性格・・・なども考慮されている。
＜練習タイム＞
・長い活動時間の確保のため、学び合う時間の充実が図られていた。
＜教師の声掛け＞
・先生のアドバイスを受けて、練習方法を加えたり、変えたりすることで、自分から動こうとする様子が見られた。

授業者と学年の先生が事前に目指す児童像を明確にし、そこに向けて綿密に準備をしたからこそ、今日の授業が展開されたのだと感じました。児童が自分たちで場（練習方法）を選ぶためには、教師がその手段を教える（に気付かせる）必要がある。児童の主体性は、教師の指導によって引き出される、もしくは高められるものなのだと改めて考えさせられました。